

福祉教育拠点校の挑戦

**普通科生徒に福祉マインドを育成するための
教育課程及び取組**



平成26年2月7日（金）

千葉県立松戸向陽高等学校

1年次

福祉科「社会福祉基礎」(2単位)

家庭科「家庭総合」(2単位)

2年次

「家庭総合」(2単位)

3年次

普通科 福祉コース

福祉科専門科目(10単位)

普通科 普通コース

家庭科「ライフプランニング」(2単位)

1. 2年次の保健, 体育, 芸術をはじめ, 各教科・科目で「福祉」に関連する内容を扱うことができるかどうかを検討している。

道徳を学ぶ時間や, 総合的な学習の時間に外部講師を招いての講演会を活用して, 生徒に「福祉」について考えさせている。

すべての教育活動をとあして, 福祉マインドの育成を実現したい。

1年次 福祉科「社会福祉基礎」

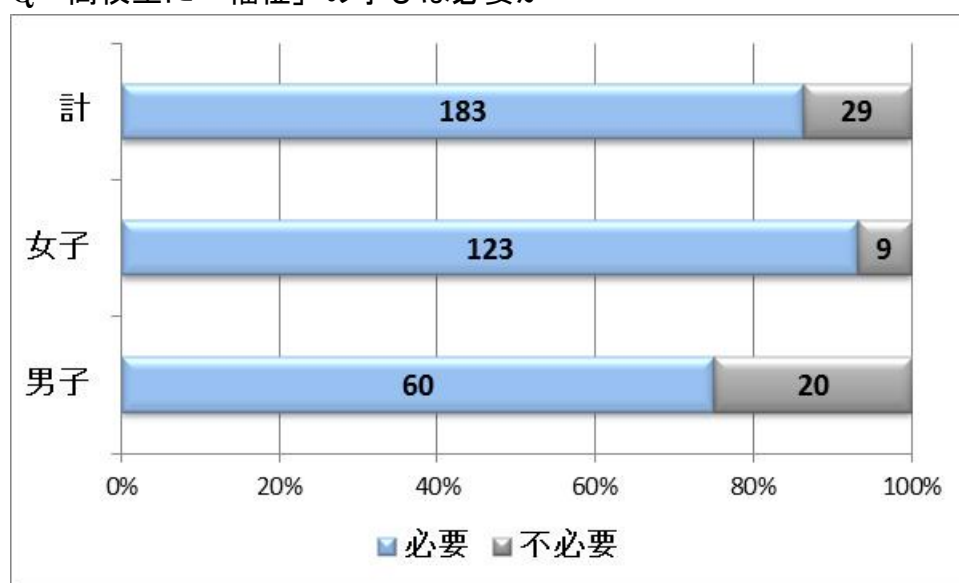
本校では、今年度入学生より、普通科1年生全員が「社会福祉基礎」を履修する。豊かな福祉マインドの形成や介護の現場だけでなく、看護師や保育士等になりたいという夢をもった生徒が、より確実に進路を決定するためにも、福祉の学びが必要である。また、進路希望が特に定まっていない生徒にとっても、「福祉」を学ぶことにより、さまざまな可能性が開けていくものと考ええる。

この後示すアンケート結果からも、「社会福祉基礎」の授業が生徒に及ぼす影響が大きいことがわかる。「福祉コース」を設置する学校では、1年次に「社会福祉基礎」を学ばせることは、一つのモデルケースになり得ると考える。



アンケート調査より（10月実施）

Q 高校生に「福祉」の学びは必要か



女子では90%以上の割合の生徒が、男子においては75%の生徒が、「福祉」を学ぶことが必要であると考えている。これは、10月に行った調査によるが、3月に同様の調査を行う予定であり、どのように変化しているのかが興味深い。

＜必要と考える理由＞

- ・社会にでるとき必要な知識である。
- ・高齢者、障害者等を見かけて手助けするときに、知識が必要である。
- ・将来役に立つはずである、

＜必要と考えない理由＞

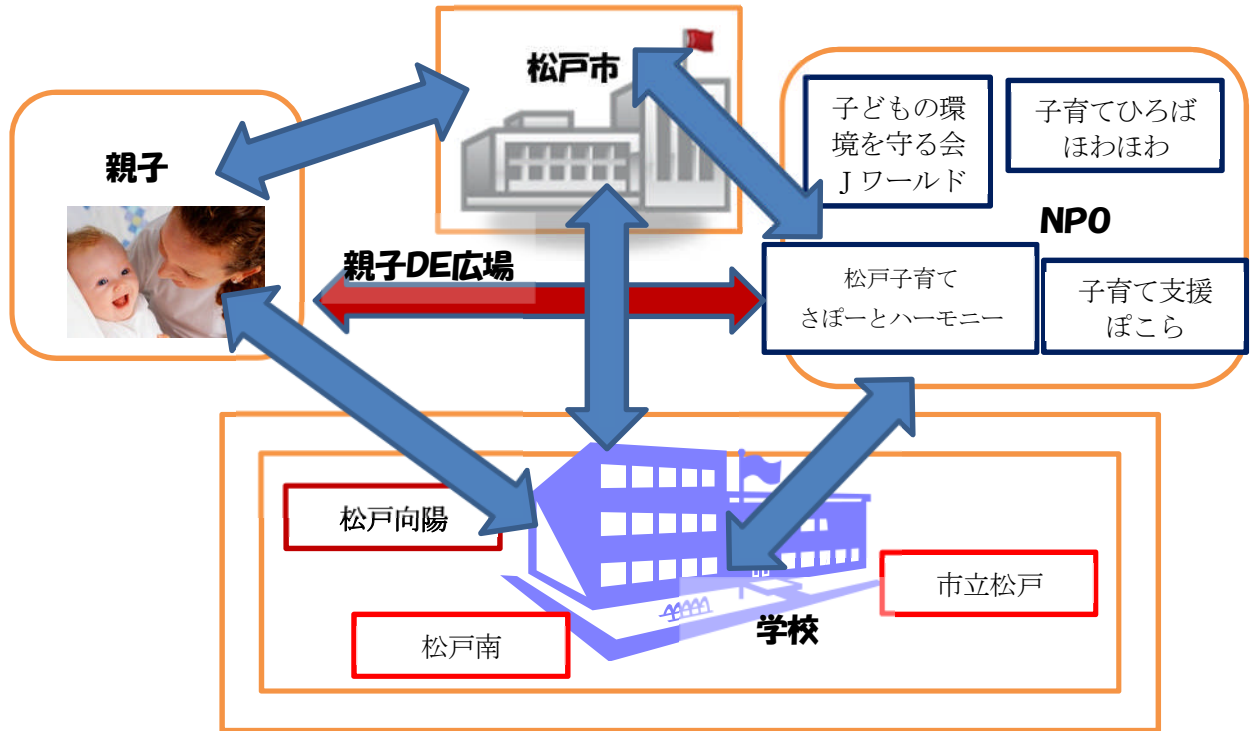
- ・自分は将来福祉の道に進まないから必要ない。
- ・「福祉」に興味がない。
- ・将来使うかも知れないが、今は使わないから必要ない。

Q 実際に「福祉」学んでの感想

- ・いろいろなマークや補助犬のことを学び、街中でみかけると、「あっ、習ったやつだ」と楽しくなり、自分が福祉について知っていることを誇らしく思う。
- ・授業を受ける前より、受けた後の方が、車いすの人や重い荷物を持ったお年寄りなどが転ばないだろうか、大丈夫だろうかと思うようになった。
- ・バリアフリーやユニバーサルデザインなど、自分たちがふだんあまり気につけないことについて学んだ。また、身体の不自由な人のために何ができるかについて考えた。手話についても学んだ。
- ・授業を受けて、「福祉」に興味を持った。
- ・習っている手話はとても役立っている。なぜならば、私のおばあさんは耳が聞こえず手話をやっているのだ。
- ・個人的に、手話はとても楽しかった。いろいろな意味がこめられていて、奥が深かった。ただ、この知識を必要とする人もいれば、そうでない人もいるのではないか。
- ・松戸向陽高校以外の高校に入学していたら絶対に学べなかったであろう「福祉」について、知ることができてよかった。
- ・「福祉」を勉強したことがなかったので、どのようなことを学ぶのか、知識は本当に必要なのかと考えていたが、意外と楽しくて、いろいろなことを学び、福祉の授業を受けてよかったと感じた。
- ・福祉についてまったく知らず、福祉＝介護と考えていたが、授業を受けて、福祉は身近なところに存在していることに気づき、もっと学んでみたいと思った。

2年次 家庭科「家庭総合」

命を育む生と性～赤ちゃんとのふれあい体験を通じて～



1 事業の目的

この事業は、松戸市子育て支援課が中心となり、松戸市在住の親子を募り、NPOとも連携しながら、高等学校生徒と赤ちゃんとのふれあい体験を行うもので、目的は次のとおりである。

- (1) 乳幼児の親子と直接ふれあい、命の大切さや子どもの愛おしさ、育児の大変さを知るきっかけとする。
- (2) 命の尊さを知ること、自分自身を大切にする心や自己肯定感を高める。
- (3) 少子化・核家族化が進む中、子育ての呼び体験をし、将来的な親力の向上につなげる。
- (4) 保育スタッフとともに活動し、地域の子育て支援の話を聞き、社会全体での子育てについての理解を深める。

2 松戸向陽高校ならではのふれあい体験

ふれあい体験は、松戸市以外でも企画され、実施されているが、県立松戸向陽高校のふれあい体験は、次の点において他とは異なる。

- (1) 学年生徒全員が体験する。
- (2) 家庭科授業の中で、人形等を使用し事前学習した後で、ふれあい体験に臨む。ふれあい体験当日は、特別時間割を組み、3時間連続で家庭科の授業とする。これにより、親子を出迎えるところからはじまり、ふれあい体験、親子の見送り、片付け、そして感想を記入するところまでをこなすことができる。
- (3) NPO法人の保育スタッフから、地域の子育て支援についての話を聞くことのできる、よい機会となる。
- (4) NPO法人の保育スタッフの進行により、親同士が子育てのすばらしさや悩みを共感する場となる。

3 ふれあい体験の実際

松戸市子育て支援課と連携のもと、2年生の家庭科で「高校生と赤ちゃんのふれあい体験」授業が行われた。

今年度で3回目となるが、目的は、命の大切さや育児の大変さを知り、将来的な親力の向上につなげることである。6月11日（月）から19日（水）までの間、2年生の全クラスの生徒が体験した。生徒たちは、赤ちゃんとおふれあいながら、また、お母さんやお父さんから、お腹のなかの赤ちゃんの写真や動画をみせてもらいながら説明を聞き、育児の大変さや命の大切さを学んだ。生徒たちは、ふだん、教室ではどうもいみることができないような表情をみせてくれた。お母さんからは「自分が高校時代はこのような企画はなかった。高校生の皆さんが真剣に質問し、理解しようとしてくれたことはとてもうれしい。子育ての初心に戻ることができた。」等の感想をいただいた。

6月21日（木）の午後に、「生命を育む”生と性”」という演題で、2年生対象の講演会が行われ、生徒たちは、命の大切さを再確認するとともに、今後、どのように生活していけばよいかを考える機会となった。

2013/06/20（松戸向陽高校公式ホームページより）

昨日、今年度最後のふれあい体験が行われました。対象クラスは2年5組でした。スタッフさんの進行のおかげで、体験前から和やかな雰囲気でお母さんと生徒が会話していましたね。久しぶりにお父さんにも参加していただきました。体験は、「とんとんとんとん、ひげじいさん～」の手遊び歌ではじまりました。自己紹介もよい雰囲気でした。班長からの3つの質問にも、お母さんたちは本当に真剣に答えてくれていました。また、生徒たちのそれを聞く態度もよかった。写真や画像をみせてもらいながら、また、お母さんの説明を聞きながら、生徒たちは、出産について、育児の大変さについて、理解してくれたことと思います。また、赤ちゃんを抱っこして、赤ちゃんのかわいさを十分に感じ取ってくれていたと思います。まさに、すばらしいふれあいですね。上手に抱っこし、あやしている生徒に話しかけると、何名かは「兄弟のめんどろをみていた」と答えてくれました。また、緊張しながら「は、はじめての経験です。」という生徒もいました。よい経験になったことでしょう。

生徒からは、「赤ちゃんが、自分のことを受け入れてくれた。抱っこしていたら、安心して寝てくれた。」との感想が、担任からは、「生徒の違った一面をみることで有意義だった。生徒たちにとっても、よい経験になったことと思う。」、お父さんからは、「少しでも赤ちゃんのかわいさを知ってもらえれば、こんなにうれしいことはない。」、お母さんからは、「出産するとき、本当に痛かった。出産をとおして、自分の親の偉大さを感じた。生徒の皆さんも、親に感謝する気持ちを忘れないでほしい。」との感想をいただきました。

この1週間、2年生にとっては、かけがえのない経験をすることができました。生徒たちの感想は、後日、掲載したいと思います。参加していただいた親子の皆様には、本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。何度も来校していただいた方も、かなりいましたね。本当にありがとうございました。また、進行をお手伝いいただいたNPOの方々にも本当に助けられました。松戸市子育て支援課職員の方も、毎日、準備から一番最後まで関わっていただきました。ありがとうございました。このようなすばらしい企画を本校で実施できたこと、うれしいのひとことです。

来年度もまた本校で実施できることを熱望しています。



2013/06/20

5, 6 現目に, 2 年生対象に, 「生命を育む” 生と性”」という演題で, 講演会が行われました。講師を引き受けていただいたのは, 助産師として活躍され, また, いくつもの大学で教鞭をとられている方です。内容はもちろんのこと, 話術もすばらしかったです。聴衆を引きつける話し方は, とても参考になりました。

赤ちゃんとのふれあい体験を終えたばかりの生徒には, うなずける部分がとても多かったのではないのでしょうか。

「赤ちゃんは, 自分で決めて, 自分で覚悟して, 生きるために生まれてくる」という言葉は印象に残っています。また, 「妊娠中に周囲の人にやさしくされると, 出産後, 赤ちゃんにやさしくできる」との言葉に, 本当にそのとおりだと思いました。妊娠している人が近くにいるときは, 心遣いが必要です。

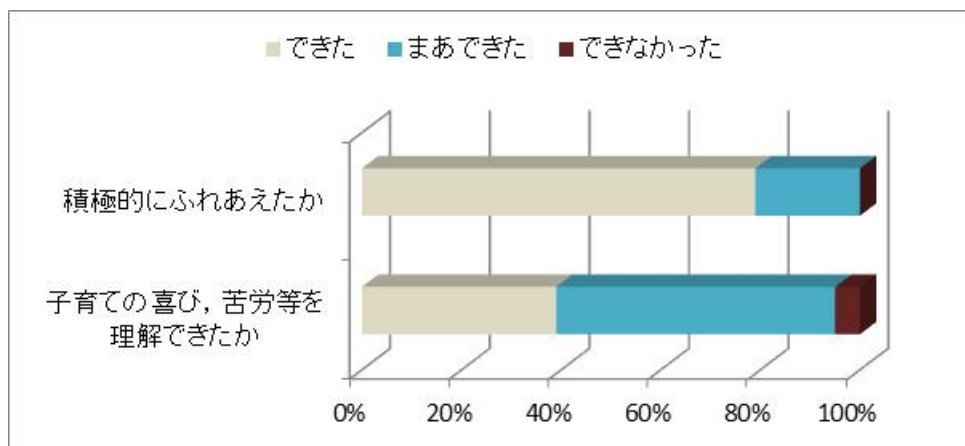
思春期の心と身体, 人間関係の傾向等を示していただきました。「思春期は自分をまとめていく時期である。自分がまとまると自分らしさができる。性別にとらわれず, 人間としてすてきな在り方(やさしさ・協調性・素直さなど)選んでいくことで, 自分をまとめていく。すると, 自分らしさが広がっていく。」という言葉で, 生徒の皆さんはどのように受け止めたのでしょうか。今日の話を, 他人ごとではなく, 自分のこととしてしっかりと感じ取り, 今後の高校生活を過ごしてほしいと願います。

お忙しい中, お越しいただいた講師の先生, 松戸市職員の方々には, 心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

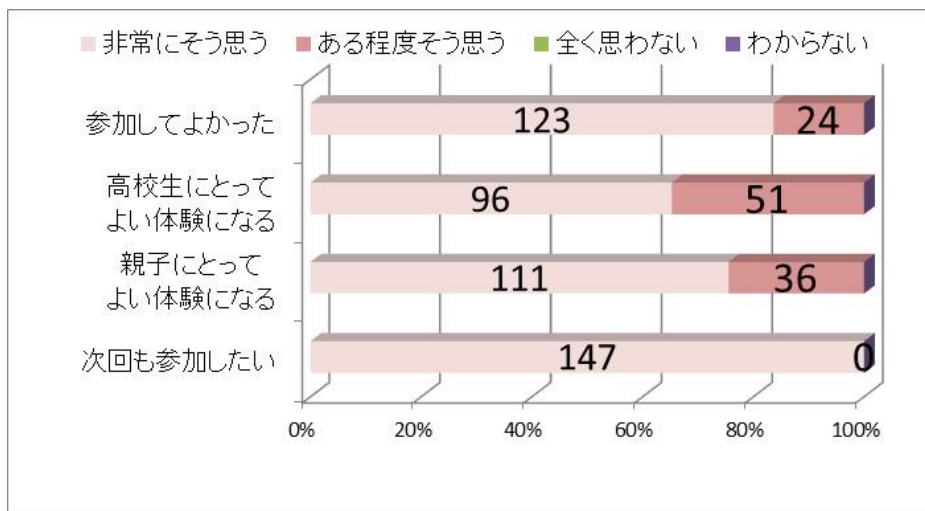


4 ふれあい体験を振り返る

(1) 本校生徒対象アンケート結果



(2) 参加した保護者対象アンケート結果



(3) NPO法人の保育スタッフ対象アンケート

3年目を迎え、松戸市子育て支援課、NPO法人のスタッフと連絡をとりながら、この2年間の反省を生かし、改善すべき点は改善して、ふれあい体験をおこなった。

「事前説明」、「当日の打合せ」、「会場」、「高校生との準備、清掃、片付け」、「高校生の迎え、案内、見送り」、「全体的な流れ」「班の活動」、「班ごとの振り返り」等の項目について、アンケートをとったが、概ね、今年度の在り方でよいとの回答をいただいた。

(4) 生徒の感想

ア ふれあい体験の感想

- ・子育ては簡単じゃないことは知っているが、知識や体力、精神面でも大変さが伝わった。夫が手伝っている家庭は、どんなに楽なのかがわかった。強い責任が必要だと思った。赤ちゃんは繊細で、すごく弱々しいから、自分より大切なものだと思って育てていかないとダメ。今回のお母さんたちは、まさに親という感じで、頼れる方でしっかりしていて、カッコイイと思った。
- ・どの親も子育ては大変だというが、子どもが居てすごく楽しそうにみえた。すごく前向きで、しっかりしているお母さん方の姿を見て、改めて親の強さを感じた。まだまだ自分は未熟で、子育てをする力がないと思った。
- ・子供を育てることは大変だと、今日、改めて感じた。もし、自分が父親になったら、全部を嫁にまかせるのではなく、できること、やれることをやってあげたいと思った。人の子どもがこんなに可愛いんだから、自分の子どもはもっと可愛いと思う。
- ・お母さんの話を聞いて、子育てはとても大変で、若いうちに産まない大変だよという話をしていただいたので、そういう意見も参考にこれからの将来を考えていきたいと思った。
- ・子供をあやす為におもちゃなどを持っていたり、おやつや飲み物など沢山荷物があつたり大変そうだった。どんなにあやしても、お母さんには勝てない。
- ・とても楽しめた。足をくすぐっても反応しなかった。本当になんでも口に入れてしまう。
- ・自分の親が今までどれだけ苦労してきたか、今になってわかった。もし、自分に子どもができて、今のままだと、何もできずに、迷惑ばかりをかけてしまうと思ったので、まじめに家庭を勉強したいなと思った。保育スタッフさんの手つきに驚いた。素人とぜんぜん違うことを実感した。
- ・親は赤ちゃんの面倒を四六時中みなくてはならないので、本当に大変だと実感した。自分をここまで育ててくれた親に感謝しなければいけないと思った。
- ・肌がすごくやわらかくて、ほんとうに丁寧にあつかわないと傷ついてしまう。なんでも食べようとして可愛かった。
- ・いろいろな物を見せていただきながら、赤ちゃんから学べるものがたくさんあると聞いて、自分もこんな風だったのかなあと思った。私も今度お母さんに赤ちゃんの頃の話聞いてみたくなった。
- ・子供が1人でできると、それに関わる人がたくさんいて、知らない土地でも仲間ができて、みんなが支えてくれるということを聞いて、子育て（将来）への不安が少し楽しみにかわった。子供が1人できた、それだけで何でもない人生が大きくかわり、かけがえのないものになる。それを聞いて私は子どもが1人のお母さんの人生を変えられるのだと感動した。
- ・母親がやってくれていることが、どんなに素晴らしいことなのかわかった。将来、自分に赤ちゃんが生まれた時は、母親にばかり子育てをさせるのではなく、自分も積極的にやっていきたいと思った。みんな楽しそうでよかった。
- ・夫の帰りが遅くて、いつも二人きりで、たまに来てくれる自分のお母さんに本当に助かっている。と聞いて、「ああ本当になやんでいるんだな」と強く思った。3人の子どもを持つお母さんもいて、なんか3人産んだ人はすごいなあってくらい、かんろくがあつておもしろかった！！私はまだ子どもなんて考えてもなかったけど、この体験をして、子供に興味が出た！
- ・一人の命を育てることが、どれだけ大変で難しいことなのか分かった。また、同時に子育ての幸福感や充実感を感じた。気分がコロコロ変わってしまうので、泣いてしまった時はとても不安になったけど、あやして笑ってくれた時は思わずこちらも笑顔になってしまうくらいかわいかった。自分の父母もこういう風に私を育ててくれたのかと思うと感慨深い。
- ・前まで子どもが怖くて挙動不審だったが、最後の方に甘えて（？）きてくれて、すごく可愛かった。自分の親もあんな感じに扱ってくれていたのなら、それはとても嬉しいことだと思った。
- ・やはり、子育てって楽しい嬉しい分、つらくて大変なこともたくさんあるんだと実感した。産むとき、すごく痛くて大変だけど意外とあっという間で、子育てしているとそんなつらかったことも忘れてしまう。だから「出産は痛いから産みたくない！」と思っている自分が子供だと思え、バカらしくなった。

- ・赤ちゃんはなんでも口にいられたがったりしていた。妊娠中は病気をしても薬も飲めないし、痛みとの戦いだなぁと思った。赤ちゃんがいるお母さんはとても楽しそうだった。保育スタッフさんは赤ちゃんのお世話だけではなく、お母さんのケアなどをすることが大切なのだと思った。
- ・大きくて、重くておとしそうでこわかった。すごくやわらかくて、いいにおいがした。とてもかわいかった。お母さんたちはすごいなと思った。
- ・やはり子育てはねむれないし、相手にしてあげないといけないし、結構難しいと思った。
- ・子供がかわいいだけでじゃ育てられない。それに、泣いて、あやして、泣きやんで、寝かせようとすると、また寝ずにまた泣きはじめてしまったから、とても大変そうだった。身近に小さい子どもがいないので、とても、いい経験になった。まだまだ先の出産というものが、身近に感じられた。楽しかったし、たくさんのが学べた気がする。
- ・子育ては大変そうだったが、子どもがいると幸せそうだったと思った。自分の親の子育ての大変さもわかった気がする。
- ・自分の親はずいぶん適当だなぁと思った。だから、自分は、子どもが産まれたら、ちゃんと育てようと思った。
- ・たいへんなこと、嬉しいこと…皆さん同じようじゃこうちがう。自分はどうなるだろう、想像ができない!!…しかし、こうしたい、こうできたらいいと思うことがたくさんあった。なんでも「ワンワン」と言っている子がいた。とにかくかわいい。
- ・いままで子供と遊ぶのは好きだったが、今日はふだん関わる機会がない乳幼児とふれあえてよかった。もっともっと子供が好きになれた。しかし、やはり最初はなんでないかわからなかったし、言う事をきかないし、子育てはラクじゃないということがわかった。それでも、もっと良いことがあるから、いつか子どもがほしくなった。
- ・今日来てくれた子どもがねむかったので、一瞬ぐずったりした時があって、その時にお母さんがあやしているのを見て、自分も赤ちゃんの時はこういうふうにお母さんにしてもらったんだなと思った。お母さん方は話をしながらも、自分の時間なども削って子供をしっかり見ていたので、自分に子育てができるか少し心配になりました。
- ・赤ちゃんはかわいいが、なんでも口に入れたりして、色々どこかへ行ってしまうから、育てているお母さんはすごいと思った。
- ・お母さんの話を聞いていると、大変なことばかりだけどすごく楽しそうだった。
- ・お母さんの話を聞いていると、自分も子どものときはこんな感じで、迷惑をかけてばかりだったのだと知った。体験を通して、赤ちゃんを産む大変さ、育てるつらさを知ることができました。また、女性としてのつらさを知ることができ、男としてできることはやる!!積極的に手伝うという思いがうまれた。
- ・赤ちゃんって、めんどろみたりするのは大変で嫌になってしまうかと思っていたけど、そうでもなかった。苦労もあると思うが、新しい発見や出来事を体験できるということをあらためて分かった!!赤ちゃん産んでみたい!!一生で一度なら!!
- ・最初、食事制限など、そこまでないだろうと思っていたが、マックやケンタッキーなどが好きなお母さんにとっては、一口も食べられないと聞いて、ものすごく大変だと思った。
- ・すごく貴重な体験ができた。自分はほとんど赤ちゃんとは接する機会がなかなかないので、改めて出産の大変さ、子育ての大変さを学ぶことができた。自分も子供を育てることになった時のことを考えると、今日聞いたお母さんの話が参考になると思う。母子手帳・日記・産声・メッセージなど良いものをみることでできて良かった!
- ・子育ては大変だけど、子どもが笑うと嬉しくなっていくと思う。陣痛の痛みより、子どもが産まれた瞬間の方が嬉しいというのがよく伝わった。
- ・見せてもらったなかで、育成ノートみたいなのがあって、ものすごくびっしり書いてあって、書くのが楽しいって言っているのを聞いて、自分もそういう親になりたいと思った。あとあと、子どもと一緒に見るのが楽しみになりそう。
- ・私の母は母子手帳や日記などはあまり書いてくれていなくて、私が小さい時はどんなだったかなって考えていた。もし、私がお母さんになったら、子どもの為に、日記とかを書いて残しておきたいと思った。
- ・可愛いと思ったが、実際、育てることになったら大変だろうなと思う。しかし成長を見ていくのが楽しそう。母親ばかりでなく父親の協力も必要だと思った。
- ・赤ちゃんがとても可愛かった。手を振るしぐさで片方じゃなくて両方の手が動いているのが可愛かった。
- ・今まで自分を育ててくれた親の大変さがわかった。例えばおむつを替えることだったり、飲み物を飲ませたりすることである。
- ・「人見知りな子」「オープンな子」「やんちゃな子」など一人ひとりの個性が違うことを感じた。とても可愛かった。
- ・赤ちゃんはすごく小さくてかわいかった。思った以上に感情が豊かで泣いたり笑ったりを繰り返していた。
- ・笑った顔を見ると、こっちまで笑ってしまうくらい癒されました。
- ・今まで赤ちゃんに関わるのが全くなかったの、今日、とっても不安だったが、実際にふれあってみて疲れたけど、とても楽しかった。
- ・睡眠がとれないという話を聞いて辛いなと思った。子育ては大変ということは予想通りだった。
- ・「生まれてきてくれて良かった。産んで良かった」と笑って話してくれてこっちも和んだ。
- ・将来、自分がどのような親になり、またどのような子育てをするのか想像がふくらんだ。また保育スタッフの話を聞いて、私もこのような仕事をしてみたいと思った。
- ・子育ては楽しいけどそれなりに大変だ。
- ・とても可愛くて子どもがほしくなった。
- ・事故が起きないように気を配るのはとても大変だった。
- ・泣かれてどうすればいいかわからなくて、おどおどした。思っていた以上に子どもの扱いが難しく、結婚した時が大変そう。
- ・改めて保育士になりたいと思った。今日はたくさん学んだ。
- ・男の子と女の子の抱き心地の違いがわかった。エコー写真や映像をみせてもらったり、出産・育児のエピソードもたくさん聞いたりして、これからの将来につながると思った。
- ・小さい子は、どんなに疲れている時でも、一瞬の笑顔で疲れがとぶような、そんな力を持っている。
- ・子育てはやはり大変。しかし、思っているほど苦にはならない。
- ・少しはつかれたけど、赤ちゃんにふれあえてとても楽しかった。
- ・親に感謝しようと思った。
- ・自分もこんなに小さかったのだと思った。
- ・このような機会があって本当に良かった。
- ・思っていた以上に重くてぷにぷにしていた可愛かった。
- ・成長する喜びがもの凄く大きいのがわかった。自分も自然に笑っていた。

- ・陣痛はすごく痛い聞いてゾッとしたが、赤ちゃんをみて嬉しさで痛みなんか忘れると聞きすごく感動した。
- ・どのお母さんも我が子を大切にしていたかつよかった。
- ・子どもは「可愛い」という気持ちだけで育ててはいけないと改めて思った。
- ・ふれあう前は不安や関わり方にとまどいがあったが、実際ふれあうと不安が消え、明るい印象をもった。
- ・子どもの成長が親の喜びだということが印象に残った。
- ・子どもの話をしている時のお母さんの表情がすごく幸せそうだった。
- ・子育ては大変ではあるが、嬉しさ・楽しさが生きがいになっているのだなと思った。
- ・お母さんたちはみんな、子育ては大変なのに、がんばって育てていてすごかった。
- ・親もいろいろ大変な思いをしていることを知った。
- ・子育てはすごく大変だが、すごく楽しいことだと思った。将来、子どもが欲しいと思った。
- ・今日来たお母さん達は、皆産んでよかったと思っているひとばかりで、赤ちゃんも幸せそうに感じた。
- ・自分にもあんな時があったんだなあ…と思うと、母親はすごく大変な思いをして自分を育ててくれたのだ、と改めて思った。自分もいい親になれるよう頑張りたい。
- ・子ども一人ひとりがそれぞれ違う、違いがある。
- ・子育てを頑張っている、親なのだから当たり前と思っていた。お母さんはこんなに大変な思いをして育てていてすごいと思った。
- ・親がとっても強い理由がわかった。
- ・少し緊張していたが、お母さんたちが場をなごませてくれたので、緊張が消えた。自分自身も親になるのかな、とか考えさせられた。本当にいい体験をした。
- ・自分が親になってから、親の大変さがよくわかると思う。
- ・子どもを育てることに関して、お金のことなど、先のことを考えるべきだと思う。
- ・参加してくださったお母さんをみて、自分もこういう風にあやしてもらったり、抱っこされたりしたのかなと思った。
- ・子育ては苦勞することも多いが、赤ちゃんと一緒に自分も成長させることができると聞き、私も子どもが欲しくなった。
- ・可愛いけど、いろいろのところに歩き回ったりするから、目が離せない。
- ・最初は赤ちゃんに喜んでもらえなかったらどうしよう、と不安だったが、赤ちゃんのほうから抱きついたり、笑ったりしてくれて、すごく嬉しかった。あちこち動いて、世話しない人には赤ちゃんは寄らなかったのも、おとなしくしていたら興味を持って来てくれたと思う。
- ・子どものことをわかるのは、とても難しい。
- ・今まで赤ちゃんとうれあったことが一度もなく、尋常じゃないくらい緊張した。赤ちゃんを見て、泣いている姿や遊んでいる姿が、おおげさだけど涙がでるくらい可愛かった。小さい手や足をみてすごく感動した。自分も小さい頃はあんなに感じたと思ったら、成長ってすごいなと思った。
- ・将来、自分の子どもができれば「親子ふれあい体験」に参加させたい。
- ・子どもの気持ちは思っているよりも感じとりやすく、ふれあうのはとても難しかった。体がやわらかく、どうしたらよいかわからなくて怖いと思ってしまうことがあった。
- ・子どもが成長するにつれて親も成長しなければいけないことがわかった。
- ・乳幼児は言葉がしゃべれないので、あつかいにくくとても大変だと思った。赤ちゃんが泣いた時お母さんはあわてずにあやしていたので、すごいと思った。
- ・本当に幸せな時間だった。普段はあまり乳幼児と接する機会などないから、とてもいい体験ができた。子育ては大変だけど子どもの成長を直接感じることができ、それと同時に親もまた成長できるのだと学んだ。

Ⅱ 講演会を聞いての感想

- ・子どもが、産まれてくるのは、すごく大変なことだとわかった。
- ・キスをただで病気になることがあるんだな、と思った。
- ・精神的攻撃はしてはいけないと思った。
- ・4歳の妹を大切にしようと思った。母の手伝いしようと思った。
- ・生命の誕生は何が起こるかわからないことがわかった。
- ・今の思春期の維持の仕方が、いかに赤ちゃんを産むときに大変かを知った。
- ・勝手に子どもをつくり、捨てる。まるでペットショップで売られている犬や猫のよう。人権は無意味だと思った。
- ・わかりやすく、勉強になった。
- ・3日間も陣痛だったのはとても大変。
- ・子どもを虐待するなんて信じられない。
- ・自分が今この場にいること、子どもが、産まれてくることは当然のことではないと思った。
- ・「女らしい」のが、ばかでかわいと言ってたのが、わからない。
- ・自分が生きているのは当たり前ではなく、他の人から支えてもらっていることがわかった。
- ・改めて自分の大切さや、産む大切さを感じた。今ここで、嫌なことがあっても、楽しく、充実していることを感じた。
- ・子どもを産む辛さ、幸せを知った。
- ・周りの人と協力することが大切だと思った。
- ・将来、子どもを産もうか迷っていたが、いろいろ考えると産むほうがいいと思った。
- ・10代の中絶が増えていて聞いて、命というものがだんだん軽いものに思われているのかと思った。
- ・心の準備や体の準備をしておかないと中絶することになって、みんな不幸な気持ちになってしまう。
- ・赤ちゃんも親と同じくらい苦しい思いをしながら、産まれることを知った。
- ・自分たちが生きていることは当たり前でないと考えた。
- ・男女のイメージにとらわれず、自分らしく生きることが大事だと思った。
- ・性病の恐ろしさについてちゃんと知っておきたい。
- ・些細な言葉が暴力になるとは思わなかった。
- ・子どもを育てるのは、楽じゃないが、とても幸せなことだろうな、お父さん、お母さんの写真を見て思った。自分が親になったら、自

- 分の子どもを大切にしようと思った。
- ・陣痛の時、旦那さんが体を支えたりすることは大変だと思った。
 - ・助産師の仕事はとてもやりがいのある仕事だと思った。
 - ・簡単な気持ちで性交をしてはいけない、と思った。
 - ・お腹の中で、へその緒は意外と長かった。
 - ・周りの人の手助けがとても必要だし、一番パートナーの助けが必要だからしっかりしてほしい。
 - ・出産するのに、パートナーが大事って言っていたが、シングルマザーみたいなパートナーがいない人はどうしたらいいのかな、と思った。
 - ・自分は帝王切開で、産まれたが、普通に産む、辛さ、痛さを知った。
 - ・将来子どもを育てることになったら、命を大切に、責任を持って育てようと思った。
 - ・子育ては、自分が思っていた以上に大変だということがわかった。
 - ・母親が子どもを虐待する確率が3人に1人と聞いて悲しく思った。自分の子どもを殺したりするのはありえない。
 - ・子どもを育てるのは、すごく苦労が伴うこと。肉体的に精神的に強くないと乗り越えられないと思った。
 - ・妊娠中はとにかく気をつけてあげたいと思った。
 - ・出産はリスクが大きく、とても責任が大きいことだと思った。
 - ・男女の偏見がとても悲しいことだと思った。
 - ・授業で学んで、知識としては知っていたが、実際に写真でみて勉強になった。
 - ・出産はとても痛そうで大変そうだから、産みたくない。
 - ・児童虐待はその一人のせいじゃなく、周りで支えるひとにも原因があるのでは？虐待はいけないことだが、何かの原因があることを理解しないといけない。
 - ・なぜ若いうち（学生とか）に性交渉をしたいと考えるのか、よく理解できない。興味本位か？産もうという気がないのにおかしい。
 - ・命を大切にしないといけないと思った。
 - ・赤ちゃんはか弱いと思っていたが、とても精神的にも力強いと思った。
 - ・私も結婚して健康でかわいい赤ちゃんを産みたい。
 - ・中絶するくらいなら、はじめから妊娠しないように気をつけないといけないと思った。
 - ・母親のほう子どもを殺す確率が高いのに驚いた。
 - ・将来よりよい関係を築いていくために、お互いが自他ともに個性を尊重しあい、生命の尊さを理解した上で過ごしていかなければいけないことを改めて学んだ。
 - ・将来、ちゃんとパートナーを選んで、自立したら子どもをつくりたい。
 - ・将来子どもが、産まれたとき、積極的に育児をしないといけないと思った。
 - ・あかちゃんは育てられるお金や環境が整っていないと産んではいけない。
 - ・親の支えも誰かがしてあげないといけない。
 - ・思春期は自分自身を確立し、心と体が成長する大切な時期だと理解した。自分の命だけでなく、他人の命も大切にしたいと思った。私を産んでくれた母に感謝したい。
 - ・虐待の件数が思ったより多かった。
 - ・お母さんの方が虐待の件数が多くて、捕まっているとは思わなかった。
 - ・子供は、1人でとか、2人でとかで育てるのではなく、みんなで育てていくものなんだと思った。
 - ・子供が、産まれてくるときに、苦しそうに出てくると初めて知った。たくさん助けの中で、産まれてきたから大切にしないといけないと思った。
 - ・生きることの大切さを感じた。命のことをもっと考えなければならないと思った。
 - ・「女らしさ」「男らしさ」に縛られないことが大切。
 - ・自分ではちょっとしたことも精神的暴力になることがわかったので、これからは気を付けたい。
 - ・子供は、産まれてきて泣くのがあたりまえと思っていた。子供も一生懸命 出ようと必死に頑張っていることを知った。
 - ・赤ちゃんが、産まれてくるまで、いろんな苦労をして周りの人が支えてきたんだなあと思った。
 - ・性交とはコミュニケーションの最高位。故に簡単にはならないことを改めて思った。
 - ・自分が支えられて、産まれてきたことがわかった。
 - ・命の大切さについて身に染みた。避妊・虐待についてももっと真剣に考えなければと思った。
 - ・人間を育てるのだから、自分自身がちゃんとした人間にならねばならないと思った。子供のまま年月がだけが過ぎるのではなく、きちんとした大人になりたい。
 - ・軽はずみで言ったことも暴力なんだなあと思った。
 - ・産むとき、育児期だけでなく、思春期の過ごし方もきちんと考えなければならないと思った。

(5) 参加した保護者の感想

ア 参加した理由

- ・普段高校生とふれあう機会がないので参加した。(多数)
- ・子どもにとってよい刺激になればと思った。(多数)
- ・人見知りが始まっているので家族以外の人とふれあって欲しかった。人見知りの克服のため。
- ・参加したことのあるママにとっても楽しいと聞いたので。
- ・自分が高校生の時に赤ちゃんとうれあうことがなかったのでよい経験になるかと。協力したかった。
- ・高校生にもよい経験になればと思ったから。赤ちゃんを身近に感じてほしいと思って。
- ・高校生が赤ちゃんに関わることで、命の大切さを感じてほしかったから。
- ・高校生が将来親になるための準備や、両親に感謝の気持ちを持って欲しかったから。
- ・松戸市のHPをみて。広報松戸で知って興味があったから。
- ・親子で広場のチラシをみて。子育て支援センターでチラシをもらって。ホットルーム・東松戸保育園で紹介され、興味のある企画だったため申し込んだ。

- ・今の高校生の授業がみてみたかった。
- ・自分にもいろいろな経験だと思って。
- ・去年も参加して良かったから。
- ・友達に誘ってもらった。おもしろそうと思った。
- ・同年代の子どもやいろいろなお母さんともふれあいたかったから。
- ・仕事が休みだったから。
- ・主人が休みだったから一緒に参加した。いろいろな意見を聞いて主人にもいい経験になると思ったから。
- ・家の近くにある高校がどんな高校か知りたかった。
- ・外出のきっかけ。毎日子どもと家にこもりがちなので、出かけるきっかけがあるのはありがたい。
- ・保育園の納涼祭の時に高校生ボランティアがたくさんいた。こちらも高校生の役に立てればと思った。
- ・町中でお世話になっている。私も何か貢献できればと思った。
- ・日常では味わえない楽しさがあるのではないかと期待感で参加した。
- ・自分自身のリフレッシュ。
- ・この事業の目的に賛同したから。

Ⅰ 参加しての感想

- ・高校生と話す機会がないので、とても楽しかった（多数）
- ・高校生の純粋な優しさをみて良かった。高校生の熱心な姿を見て、心が温かくなった。
- ・高校生がとてもいい子たちだった。
- ・子どもが楽しそうだった。（多数）子どもにいい刺激になった。
- ・高校生にとってもいい体験だったと思う。
- ・子どもをよくみてくれた。遊んでくれた。抱いてくれた。子どもの笑顔がたくさん見れた。
- ・出産のエピソードなど話ができるのが楽しかった。
- ・高校生が興味をもって話を聞いてくれた。素直に話を聞いてくれた。
- ・生徒の真剣な姿にこちらも学ばされた。
- ・持っていた高校生のイメージが変わった。
- ・ママ同志の交流にもなった。
- ・妊娠中のことを思い出し、改めて自分も頑張ろうと思った。
- ・改めて子どもとの接し方を見つめ直すことができた。初心に帰ることができた。
- ・大勢の中で子どものふるまいを見たり、他の子どもを見れてよかった。
- ・（ぐずる子どもを見て）子どもは思い通りにはならないことが知ってもらえた。
- ・他のお母さんの話を聞いて自分も忘れていたいろいろ思い出すことができた。
- ・少しは役に立てた気がする。高校生の時に赤ちゃんとおふれあうことで、将来何らかの役にたつと思う。将来の仕事に役立ててほしい。自分でも役にたてたんだと、嬉しかった。
- ・「子どもはいらない」という高校生と話ができたから。
- ・母子ともに貴重な良い時間だった。リフレッシュできた。
- ・実際に赤ちゃんにふれてもらい、将来に希望を持ち今後に生かせてもらえたら嬉しい。
- ・命について考えるきっかけになった気がする。
- ・もう少し高校生との関わりがもてたらよかった。

(6) NPOスタッフの感想

ア 全体をととしての感想

- ・学校の先生方の取組がとても熱心で、生徒たちも積極的にふれあったり、お母さんたちの話をきちんと聞いたりしていたので、とてもよかったと思う。参加されたお母さんもていねいに質問に答え、とても和やかな雰囲気だった。男子生徒が照れているようすをみて、お母さんたちもうれしかったのではないかな。学校のホームページで、毎日報告もあり、すばらしいと思った。
- ・生徒たちも優しい気持ちで接していた。お母さんたちとも会話がはずんでいた。貴重な体験だったと思う。
- ・室内全体がとても明るく、安全面にも細かく配慮があり、赤ちゃんとお母さんが、安心して楽しく過ごせる会場だった。また、生徒が書いたイラストが、さらに和やかな雰囲気をつくりだして、とてもよかった。生徒はとても熱心に赤ちゃんに向かい合っていた。先生が、指示にしたがってくれた生徒に対して、「ありがとう」と必ず言っていたのが、すばらしかった。
- ・高校生もお母さんたちも、とても積極的に話をされていて、とてもよい雰囲気だった。事前準備がしっかりしていることがよくわかった。とてもスムーズなふれあい体験だった。
- ・高校生もお母さんたちも、とても楽しそうに過ごしていた。「もっと申し込んでおけばよかった。」と話していたお母さんが印象的だった。そのような会で手伝いができて、とてもよかった。
- ・私が高校時代にはなかった、すばらしい企画だと思う。いのちの大切さを学ぶことができ、中絶などのおそろしさに気づけたのではないかな。
- ・女の子2人は、出していた髪を直前できちんと耳にかけていた。マスクもとってくれた。落ち着きのない男子生徒に、「それでは信用できない。赤ちゃんを抱かせることはできない。」と話すと、その後は、心を入れ替えてマットの中で活動していた。中身はとても素直な子だ。
- ・お母さんが積極的な交流を心がけてくれ、感動した。高校生たちも、貴重な体験ができ、すばらしい企画だったと思った。ずっと続くとよい。また、他校にも広がるとよいと思った。
- ・男女の仲がとてもよく、とても雰囲気がよかった。はずかしそうにしている生徒もいたが、赤ちゃんをだっこさせてあげると、うれしそうだった。
- ・2回目の参加だが、以前よりも、指導や先生方の経験もあり、見守りながら手伝いすることができた。授乳、おむつ替えの場所が少し遠いかなと思ったが、お母さんたちが楽しそうにしていたのでよかった。生徒たちと母子との関係から産まれる何か、希

望のようなものを感じて、私の方がよいものを受け取って替えてくることができた。

- ・人数配分などちょうどよかった。エコー写真などから、命の大切さについて学んでもらえるように、少し振り返った。受けとってもらえたと思う。先生以外の大人と話すことに慣れている生徒とそうでない生徒いて、よい経験になったのではないかと思う。松戸市の全高校生、そして千葉県全体、全国へと広がってくれたらと思う。
- ・生徒たちの受け入れ体制が整っていて、とても交流しやすかった。積極的な生徒も多く、楽しく交流できた。

イ NPO法人として

NPO法人子どもの環境を守る会 J ワールド

私たちは中高生に将来の夢と希望を持ってもらえるように、平成23年度から松戸市協働事業「ゲットユアドリーム事業」を行っています。その事業をご理解いただけるようにと、松戸市の全中学、高校を松戸市子育て支援課と訪問しました。事業をご理解くださった向陽高校の体育館をお借りできたり、学校から生徒に案内をしてもらえたりと、NPOだけでは届かなかった活動の周知、また、法人の信頼度が上がるなど、多くの効果を体験しました。さらに、連携を通して学校とのつながり、新しい事業が誕生しました。近隣中学の家庭科授業の「赤ちゃんとのふれあい体験」が弊法人の「おやこDE広場旭町」で行われ、中学でも大変喜ばれています。地域住民やNPO、地域の学校が繋がり、連携していくことは学校も地域も願っていることだとわかり、始まった連携をさらに広げていき、地域の子どもたちが健全に成長できるよう活動を続けていきたいと思っています。

NPO 法人子育て支援ぽこら

（効果）日ごろ接することのない高校生の様子や考えに触れることができ、自分自身の子育て中をふりかえることのできたスタッフもいた。広場での活動を高校生に説明し、子どもが生まれてから利用できる場所があることを若い世代にも知ってもらえた。本法人が現在市との協働事業で取り組んでいる、パパ手帳を活用していただけたこと。

父親になる前の年頃の子どもたちにはいずれ父親になるであろうことを意識してもらえるきっかけのひとつになったのでは、と期待している。普段、おやこDE広場などで見える母親たちの姿だけではない様子を見ることにより、母親たちも一人の社会人として何か役に立つことをしたいという思いを再確認した。

一つの法人だけでは、このような場所での活動はできないので、活動の場を広げることができた。また、そこから活動が広がっていけそうな期待がもてた。

（成長）高校に行き活動することで、広場のスタッフが色々な場で自分たちが必要とされているという気づきとなり、個人の取り組みかたが向上し、ひいては法人の活動に対して前向きとなる。この活動に参加できなかったスタッフにも報告し、次回は自分も参加したいというスタッフの希望があったので、法人活動の活性化にもつながりそうだ。

NPO 法人子育てひろばほわほわ

《 連携を通じて得られた効果 》

- ・同じ東部地区にある高校ということで、参加を促した親子にとっても「地域」ということを意識した参加となり、生徒や先生方の取り組みに感銘を受けた様子だった。毎日子育てに奮闘している親子が、このような形で意識を持って社会参加することは、とても大事だと思う。
- ・継続してこの取り組みを行っていくなかで、学校の生徒の特徴や事前の打ち合わせ等を通して、担当の先生と顔の見える関係ができたこと、高校のホームページ等からも熱心な取り組みのようすがわかり、今後子育てひろばの活動にも生徒の皆さんが来られるような事業ができるのではと可能性を模索している。※今回、子育てひろばについての説明させていただけたことがとてもよかった。
- ・日頃、子育てひろばの中で乳幼児の親子とふれあったり、子育ての相談を受けているスタッフが、どんな生徒さんや親子でも、和やかにやさしく声かけすることで、素敵な出会いをコーディネートできたことはスタッフ自身にとっても自信と経験につながった。

《 組織としての成長が見られた点 》

- ・地域での子育て支援をミッションに活動するNPOとして、今回のように地域の学校の授業に協力するという新しい形での活動ができたこと。
- ・これまで子育てひろばで学生のボランティアを受け入れてきたが、学校の取り組みの一連の流れを理解したうえで、授業の中で生徒と親子をつなぐ役割をそれぞれのスタッフが体験し、視野が広がった。NPOとして、これから展開していく事業に役に立つと思う。

(連携)

- 日頃ひろばに来ている利用者（子育て中の親）が普段接することがない高校生とふれあう機会をつくることができた。また、子どもを産んだ時のことや子育てについての話を、高校生に話すという機会は親にとってもとてもいい体験になり、子育て中でも誰かの役に立っている感が得られ子育ての自信にもつながったようだ。
- スタッフにとっては、将来親になるであろう高校生と接することで、今の子どもたちの現状、考え方を改めて知る機会になった。また、子育てひろばの存在、そこで働くスタッフを知ってもらういい機会になった。
- 組織としては、いろんな世代の人とつながることはとても大事だと考えていて、特に学校との連携は、このひろばの理解をなかなか得てもらえないのが現状のなか、快く対応をしていただいていることに感謝をしている。

3年次 家庭科学学校設定科目「ライフプランニング」 授業計画（案）

この科目は、平成26年度の3年生の授業からスタートする。

<授業の目的・育成したい人材像>

普通科普通コースで週2時間の授業を行う。内容は1・2年で学習した「家庭総合」を基礎として一人ひとりが社会生活、家庭生活においての自立を目指す。自分の将来をしっかりと考え自分の夢を実現させるだけでなく、地域社会と共に生きる人材の育成を目指す。

<1年間の流れ>

高校3年生の自分からスタートし、一生の変化に対応できるように、シュミレーションしながら授業を進める。

<項目と学習内容>

自立準備	・職業選択（求人票・礼法） ・卒業後の暮らし方の検討 ・住居選択（間取り 環境・家賃）☆ ・一人暮らしの家計簿☆
自立	・契約（カード、ローン）☆ ・社会保障（健康保険・公的年金のしくみ） ・生活設計（結婚、出産、子育て） ・地域での子育て☆ （子育てマップの作成…病院、市役所、保育園、支援センター、公園など） ・地域の幼稚園での実習 ◎ ・NPOによる子育てセミナー◆ ・相続
高齢期とは	・現在の高齢者との交流状況（一緒に暮らしている？） ・江戸川大学総合福祉専門学校◆ 障害、高齢者の体験（2時間程度） 介助の方法 ・グループホームに行く（事前、事後指導を含み3時間程度）◆ ◎ ・健康な高齢者との交流 ◆ グランドゴルフを習う（2時間程度）◎ インタビュー調査

☆はコンピュータ室を使用

◆外部講師による授業展開

◎外に出ての活動

今の段階ではこのような授業展開を計画しているが、この授業を安全に配慮しかつ目的を達成するように展開するためには、分割授業もしくはT.T.で対応する必要がある。